

株式会社 T2

TRANSFORMING TRANSPORTATION



2026.03.24



目次

1. 会社概要
2. 事業開発・技術開発の紹介
3. 自動運転トラックの社会実装にむけて

会社基本情報

会社名	株式会社T2
オフィス	本社 : 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル 座間オフィス : 神奈川県座間市広野台2-10-7 プロロジスパーク座間1 3階
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動運転システムの開発、同システムを搭載した車両による幹線輸送サービス事業 ■ 幹線輸送に付随した関連サービス事業 ■ 自動運転システムを活用したその他事業や関連サービス事業
資本金 (資本剰余金等含む)	140.7億円 (剰余金含む)
社員数	224名 (2026年3月時点)
設立時期	2022年8月30日
代表取締役	熊部 雅友
株主	株式会社宇佐美鉱油、株式会社環境エネルギー投資、株式会社Preferred Networks、紀陽キャピタルマネジメント株式会社、鈴与株式会社、大和物流株式会社、東急不動産株式会社、東京センチュリー株式会社、東邦アセチレン株式会社、日本貨物鉄道株式会社、日本郵政キャピタル1号投資事業有限責任組合、福山通運株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、三井住友信託銀行株式会社、三井倉庫ロジスティクス株式会社、三井物産株式会社、三菱地所株式会社、EEI5号イノベーション&インパクト投資事業有限責任組合、JA三井リース株式会社、KDDI株式会社、NX・TCリース&ファイナンス株式会社、Valuechain Innovation Fund 投資事業有限責任組合 (五十音順)





目次

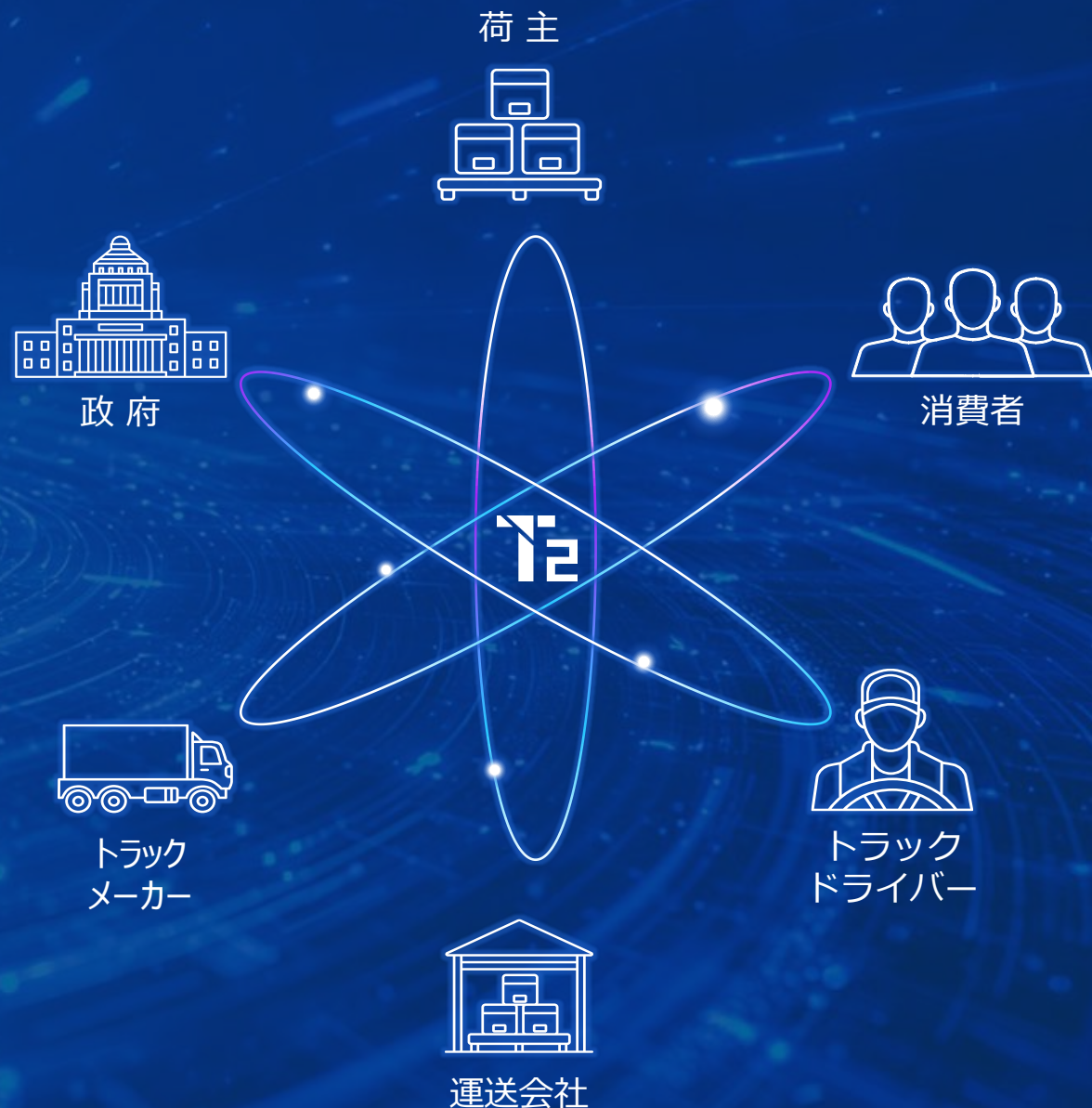
1. 会社概要
- 2. 事業開発・技術開発の紹介**
3. 自動運転トラックの社会実装にむけて

事業ビジョン

レベル4自動運転技術の活用により
世界最高水準である日本の物流を
共に支える

自動運転レベルの概要

レベル	対応主体		対象地域
	通常時	緊急時	
0 支援・自動化なし	運転手	運転手	—
1 運転支援（縦or横）	運転手	運転手	限定領域
2 部分自動化（縦&横）	運転手	運転手	限定領域
3 条件付自動化	システム	運転手	限定領域
4 高度自動化	システム	システム	限定領域
5 完全自動化	システム	システム	無制限



事業概要

T2は開発のみならず運送事業までを手掛け
顧客（運送会社・荷主）の集約拠点間の運送事業を展開へ



例) 高速道路IC直結「次世代基幹物流施設」 IC隣接地



例) 西濃運輸



例) JR貨物東京レールゲート

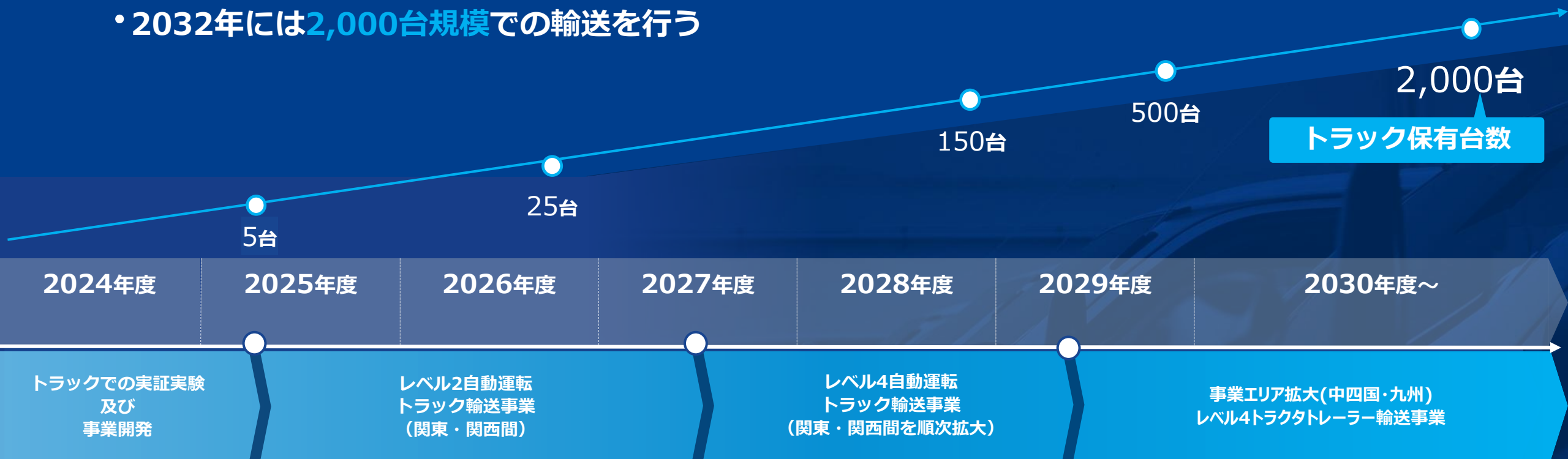


例) 大和物流



2025年7月、レベル2自動運転トラックを用いた 輸送事業を開始

- ・2027年度から**レベル4自動運転**に順次移行し、輸送エリアも拡大
- ・2032年には**2,000台規模**での輸送を行う



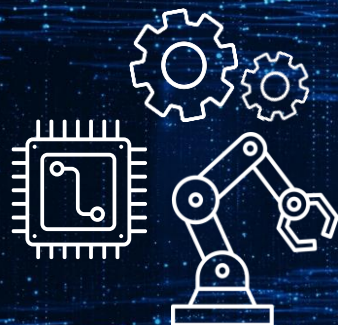
既に約40社のパートナー企業と連携済、8社商用運行済

多様な業界のパートナーと共に実証実験を開始

青字：商用運行開始済

<p>運輸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐川急便：24年10月 実証開始 ・セイノーHD：24年10月 実証開始 ・日本通運・JR貨物：25年6月 モーダルコンビネーションを開始 ・日本郵便：25年1月 実証開始 ・F-LINE：25年3月 実証開始 ・福山通運：25年2月 実証開始 ・大和物流：25年7月 実証開始 	
<p>飲料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アサヒサヒロジ、キリングroupプロジスティクス、サッポロgroup物流、サントリーロジスティクス：25年6月 実証開始 	
<p>電機</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パナソニック：25年2月 三井倉庫ロジスティクスとの共同実証開始 	
<p>製紙</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大王製紙：25年3月 実証開始 	
<p>食品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キューピー、江崎グリコ：25年7月 実証開始予定 ・日清食品：25年6月 実証開始 	
<p>清酒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月桂冠、鈴与：25年7月 実証開始 	
<p>包装</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ザ・パック：25年7月 実証開始 	
<p>化学品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住友化学：25年7月 実証開始予定 	
<p>医薬卸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東邦ホールディングス：25年7月 実証開始 	
<p>タイヤ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜ゴム：24年11月から自動運転の運用に適したタイヤの実証開始 	

各業界とのパートナーシップにより 技術開発・インフラ構築・サービス運用まで



自動運転



切替拠点開発



物流オペレーション



異常対応 (遠隔監視・駆けつけ・保険等)



車両リース／整備



ビジネス構築・投資



※上記企業はT2と株主

※セイノーホールディングス株式会社はValue Chain Innovation Fund(セイノーホールディングス株式会社のコーポレート・ベンチャー・キャピタル)を通して出資

自動運転車両

10t単車

多様なセンサー

内製ソフトウェア

基本仕様

車体：10tトラック

走行速度：最高時速80km

使用センサー

カメラ ×12

LiDAR ×3

レーダー ×10

主要内製ソフトウェア

Perception

Localization

Planning 等



これまでの取り組み

自動運転に必要な主要機能を段階的に開発
積載物の違いや、路面状況、環境条件に対するロバスト性を向上

#	時期	主要機能	道路特徴	耐天候	時間帯	積載量
1	24年10月	車線内走行	長距離トンネル	晴・曇・小雨	日中	30%
2	24年12月	車線変更	車線増減	〃	日中・夜間	50%
3	25年1月	分岐/JCT走行/合流	JCTカーブ, 規制速度変化	〃	〃	100%
4	25年3月	システム安定性向上	急勾配、本線上のカーブ、路面凹凸	霧・雨天	〃	〃
5	25年6月	〃	〃	〃	〃	〃



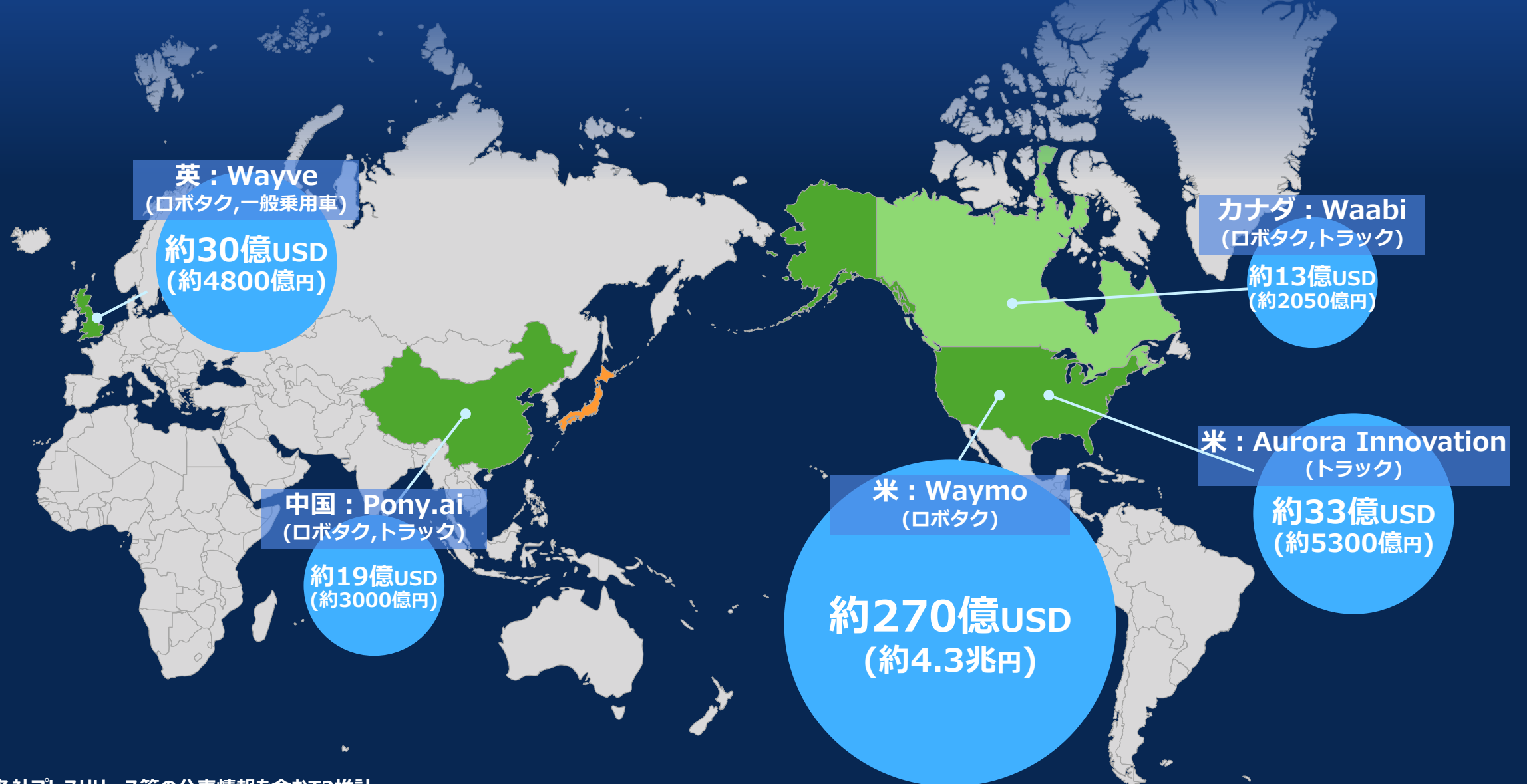


目次

1. 会社概要
2. 事業開発・技術開発の紹介
3. 自動運転トラックの社会実装にむけて

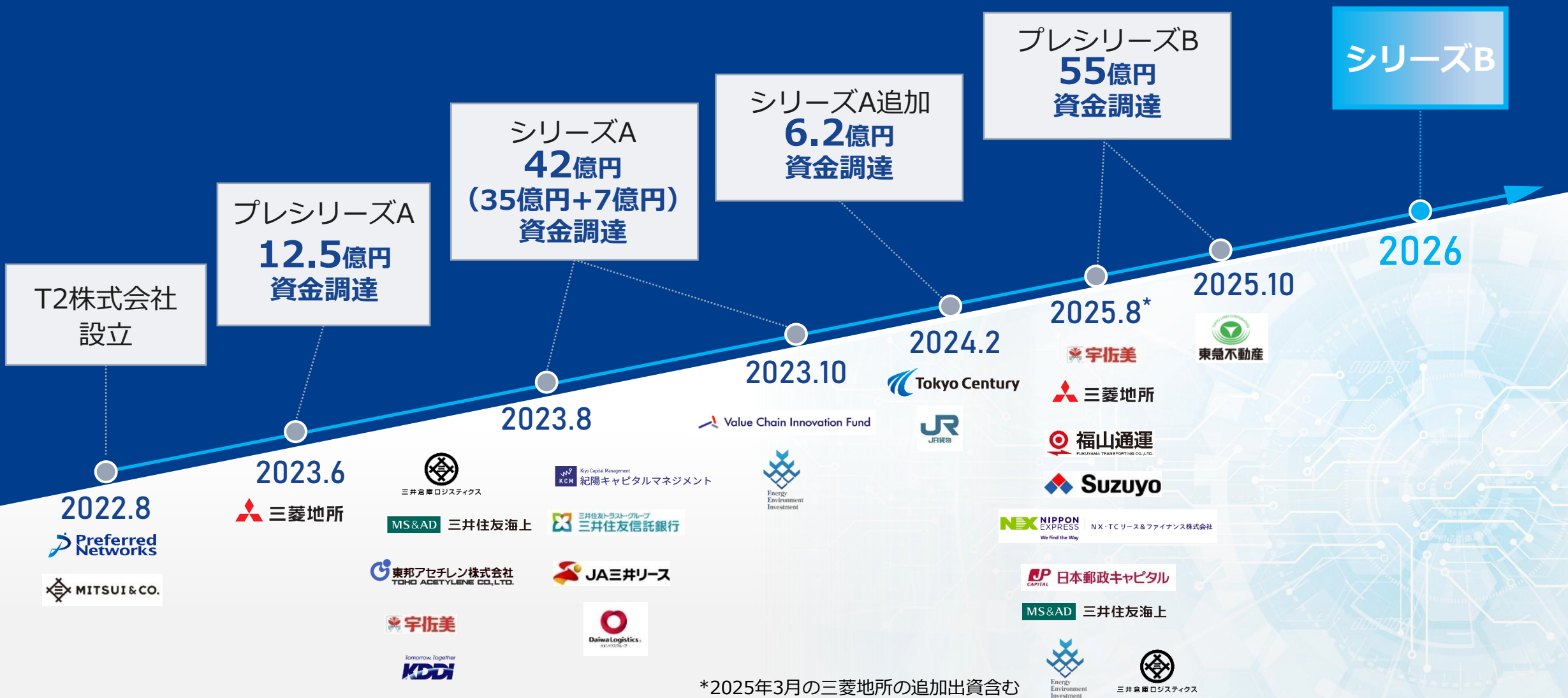
海外自動運転プレイヤーの資金調達動向

自動運転の技術開発・社会実装には、
大規模な資金調達が必要不可欠



T2の資金調達実績

全シリーズで合計115億円超を調達。事業化に向けて、今後も調達を続ける予定。



*2025年3月の三菱地所の追加出資含む

政府との連携について

自動運転トラックの社会実装に向け、各省庁から頂いた
多様な支援・サポートの継続・拡充をお願いしたい

これまで各省庁からご支援頂いたテーマ

技術開発

- 自動運転システムの開発
- V2X/V2N通信技術の開発
(活用可能性検証を含む)
- 安全評価シミュレーション手法の構築
- 走行環境の整備・提供
(新東名 自動運転車優先レーン)

許認可取得

- 許認可取得に向けた実務協議
(法令解釈等)

道路運送
車両法

道路交通法

貨物自動車
運送事業法

事業化

- L4幹線輸送のオペレーション検証
(車両/切替拠点/システム導入を含む)
- 自動運転ビジネスの社会実装を志向
する、検討会等への参画機会提供

今後に向けたお願い

1. 自動運転車両の技術開発への支援
2. 自動トラックが走行する環境の整備 (工事情報などの道路交通情報の充実、遠隔監視用の通信環境 等)
3. 自動運転ビジネスの自走化・定着支援 (オペレーションコストの負担軽減 等)
4. 社会受容性の向上に向けた取組への支援 (広報・周知 等)



TRANSFORMING
TRANSPORTAION